

## 潮来市民生委員児童委員協議会定例会（区長と民生委員との懇談会）概要

## 1 目的

市内6地区において、潮来市民生委員児童委員協議会（8月度）定例会の中で、区長及び民生委員児童委員との懇談会を開催し、地区の課題等の共有、協力体制の構築などの意見交換等を行った。併せて、現在、策定中である潮来市地域福祉計画等をはじめ、本市の福祉概況及び策定体制等を説明したうえで、地区ごとの現状や課題等について、ご意見等を伺い、計画策定や地域福祉推進のための基礎資料とすることを目的に実施した。

## 2 議題（6地区共通）

- (1) 潮来市民生委員児童委員普段の活動内容について
  - 地区ごと民生委員児童委員の普段の活動状況を説明
  - ア 地域の方々への相談支援について
  - イ 申請書類に対する意見書の記入について
  - ウ ひとり暮らし高齢者の見守りについて
  - エ ひとり暮らし高齢者・寝たきりの方の調査について
  - オ 民生委員児童委員協議会の定例会への参加について
  - カ 社会福祉協議会に対する協力について
  - キ 地域の会議や行事に参加について など
- (2) 地区内における意見及び情報交換について
  - 区長、民生委員との意見交換を行う。
- (3) 潮来市地域福祉計画等策定について
  - 事務局により地域福祉計画等の概要及び策定体制、策定スケジュール、本市の福祉概況等を説明する。その後、(株)まち研の進行によりご意見等を伺う。

## 3 開催日時及び会場

地区名	日時	会場	地区名	日時	会場
潮来	8月22日（火） 19：00～	潮来公民館 学習室	延方	8月24日（木） 18：30～	延方公民館 会議室
日の出	8月18日（金） 19：00～	中央公民館 2階 研修室	大生原	8月4日（金） 18：30～	大生原公民館 会議室
津知	8月10日（木） 18：30～	津知公民館 集会室	牛堀	8月3日（木） 18：30～	牛堀公民館 大会議室

#### 4. 地区懇談会結果の内容

##### (1) 区長、民生委員活動の周知不足

◆区長及び民生委員・児童委員は、地域の個別課題に苦慮しながら取り組んでいるが、活動内容を理解していない住民も多く、スムーズな支援につながっていないケースがある。

##### (主な意見)

- ・地域に埋もれている福祉課題に対して、本当に意味ある活動がなされているか疑心暗鬼になっている意見があった。
- ・地域役員を何期か務めているうちに顔見知りになって、やっと心を開いてくれる場合がある。
- ・地域にどんな仕組みがあったらよいのか。信用、移動手段の問題、市役所の仕事だけでは解決が難しいことも理解できるが、そのつなぎを役所にうまくやってもらうことで進むことがある。
- ・児童生徒や認知症高齢者など、実際には懇談会で説明があった7項目以外にも様々な活動をしている。

##### (2) 福祉制度等の改善、見直し

◆一人暮らし高齢者が増加していることを肌で実感している。しかし、在宅生活を送る上での支援や手助けが必要であるにも関わらず、必要な人に福祉制度が行き届いていないことに不安を感じている。

##### (主な意見)

- ・市の福祉制度の運用が従来からあまり変わっていない。もしくは、福祉制度の内容周知が不十分であることから、制度の改善や見直しが求められる。
- ・65歳以上は元気な方も多い。本当に必要な人に対応できるよう業務のスリム化が必要と思われる。
- ・単身でも敷地内同居の世帯もある。現在の民生委員の見守り体制や地区割などの見直しも必要なのではないのか。
- ・高齢者クラブの活動も好きな人はよいが、個別のグループ活動ではいけないのかと思う。
- ・すべてをボランティアに頼るとするのは時代遅れである。

### (3) 地域福祉の理解の必要性

◆少子高齢化が進行する中で福祉制度を充実させていくことは理解できるが、地域福祉の必要性に関しては認識が薄い。地域福祉で何をするのか、うまく伝わっていない。

#### (主な意見)

- ・だれもが「住みやすいまち」をつくるなど、わかりやすく伝えないといけない。
- ・自分自身が「地域を変えていこう」とならないと何も変わらない。誰しも面倒を見てもらうことがあるが、その前に「気づき」があればよい。
- ・行政に旗をふってもらわないと正直厳しい。実態をもう少し考えて欲しい。
- ・福祉というと高齢者が中心になるが、障がい者にも目を向けて欲しい。地域社会はそのような方とも一緒に共存共栄している。
- ・お互いが支え合っていける「地域共生社会」をつくるにはどんなことが大切か。どんな配慮があればよいのか。
- ・ゴミ拾いの参加や、まつりなどの声かけなどして手伝ってもらったり、ふれあいや顔合わせをしたりする中で、やっと福祉施設に対する理解が深まっていった経緯がある。

### (4) 時代にあった地域のつながり

◆日の出地区など区の未加入者が多い地区もあるが、ごみ集積所の管理など準区民のような関りも多く、まったく地域とのつながりがないわけではない。しがらみがない、面倒くさくない、時代にあったつきあい方も求められる。

#### (主な意見)

- ・区費を払ってもいても高齢のため、自ら活動ができなくなり申し訳ないので区を抜ける人がいる。
- ・区に加入するメリットが伝わっていない。単なる地域のお付き合いというだけでは加入してもらえない。
- ・区に関しては、色々な話はでるが「これだ」という決め手はない。分からない。
- ・地域のコミュニティをつなぎ止めるのは「防災」と「福祉」がカギとなる。
- ・「窓が開いている」とか、「家に灯がついているか」など気になる方の様子を遠目に見ているくらいがよい。そして「手続きをしてくれ」と連絡が入れば対応して行政につなぐ。
- ・様子が「少し変だな」という時はお声がけや、気になれば家族への連絡、同居していない子に連絡をしてアドバイスをしている。

## 潮来市福祉サービス提供事業者・団体等ヒアリング概要

### 1 目的

市内及び市民が利用する地域の福祉サービス提供事業者・団体等へのヒアリングを通じ、地域の実情などを把握する中で、現在策定している潮来市地域福祉計画等を始めとする福祉3計画の施策等に反映させるための基礎資料とすることを目的に実施した。

### 2 開催日時、会場

日 程	時 間	事業所、団体名	会 場
8/28 (月)	10時00分～11時00分	潮来市身体障害者福祉協議会	社協会議室
	13時30分～14時30分	茨城県鹿島特別支援学校	貴校
	15時30分～16時30分	潮来市手をつなぐ育成会	社協会議室
8/30 (水)	10時00分～11時00分	(福) 創志会 L S C 潮来	貴事業所
	13時30分～14時30分	ファミリー・サポート・センター	福祉事務所
	14時30分～15時30分	就労支援員(生活困窮者自立支援事業)	福祉事務所
	15時30分～16時30分	社協心身障害者福祉センター	貴事業所
9/1 (金)	13時30分～14時30分	かやの木	貴事業所
	15時30分～16時30分	ケアステーション ポプラ	貴事業所
9/4 (月)	10時00分～11時00分	こどもサークル潮来	貴事業所
	13時30分～14時30分	(福) 鹿島育成園	貴事業所
	15時30分～16時30分	鹿島育成園アイリス	貴事業所
9/5 (火)	10時00分～11時00分	デイホームきらきら 潮来市障がい児親の会	貴事業所
	13時30分～14時30分	はびたむkids	貴事業所
	15時30分～16時30分	エバーグリーン潮来	貴事業所
9/6 (水)	10時00分～11時00分	デイジークラブ	貴事業所
9/7 (木)	10時00分～11時00分	O H A N A ハウス潮来	貴事業所
	13時30分～14時30分	グッドライフ潮来	貴事業所
	16時00～17時00分	地域活動支援センター れいめい	貴事業所

### 3 ヒアリング結果の内容

#### (1) 福祉サービスに対する地域の理解不足

◆市民からの信頼を得なければ福祉事業を継続していくことは難しい。利用者が少ないのは、福祉が必要な人にサービスが繋がっていない現状もあるのではないか。

(主な意見)

- ・市民の信頼を得ないと福祉事業の継続は難しいと思う。
- ・行方地域でも福祉への理解は進んできたが、同居世帯も多く、まだ福祉にお世話になるという感覚が強いのではないか。
- ・ひきこもりの方が本当はもっといると思う。詳細把握が必要である。
- ・当事者とのふれあい、地域の人に知ってもらって、応援してもらうだけでも福祉の理解が進む。福祉は寄り添い、気づき、細かな配慮が大切。
- ・ITを活用して福祉の情報提供やサービスの利用につなげられないか。
- ・成年後見制度があるのは知っているが、実際の利用実態や疑問点が多い。

#### (2) 福祉の支援者同士のつながり強化

◆地域自立支援協議会の各部会もスタートした。地域の福祉課題を共有して、気軽に相談できる、支援者同士のつながりを充実させていく必要がある。

(主な意見)

- ・災害時の協力や支援体制、緊急時対応など、1つの事業所だけでは解決できないことがある。
- ・事業者間、行政、地域との連携強化。自立支援協議会に障がいのある当事者や家族にも参加してもらうことで新たなニーズ把握が可能になる。
- ・福祉が必要な人を見逃さないため、ヨコの連携、つながりができること。
- ・緊急時に受け入れてくれる病院等の受け皿が不足している。
- ・福祉避難所としての機能や実効性を確保し、市と連携した利用者の避難体制を確立する必要がある。障がいの特性に応じて、避難施設の受入れ想定をしておく。

#### (3) 福祉サービス事業運営の困難さ

◆福祉サービス事業者が充実してきた半面、利用者があまり増えていない事業者もある。利用者が広範囲にわたるため移動等の時間と経費で経営的に厳しい面が見られる。

(主な意見)

- ・以前に比べ福祉サービス事業が充実してきた。そのため、従来から地域にある事業所に加えて選択肢が広がり、当事者は特色にあった事業所を選べるようになってきた。
- ・鹿嶋市、神栖市の利用は多いが、まだ鹿行地域の利用者は少なく経営的には厳しい面も見られる。
- ・現在使用している施設の老朽化により、安全面に不安がある。維持管理が難しくなっている。
- ・利用者の住まいが広範囲にわたるため、移動等に時間と経費がかかりすぎる。

#### (4) 将来を見据えた自立生活への対応

◆保護者も高齢になるなかで、体力的に介護が難しくなり、将来を見据えた生活へ不安がよぎるが、先延ばしにしているケースもうかがえる。

(主な意見)

- ・グループホームは増えてきたが、将来的にはもっと必要になるはず。そうならないといけない。
- ・福祉制度を知らない人も多い。親なき後の自立した生活を視野に入れて今から行動する必要がある。
- ・地域に相談支援事業所が少なく、相談員の確保に苦慮している。
- ・将来の自立した生活に向けて、地域生活支援拠点等へのつなぎをどうするか。
- ・グレーゾーンの人への支援、対応が不十分ではないか。
- ・社協の生活の困りごと窓口機能を強化して、だれもが気軽に相談できる場所とする。

#### (5) 余暇活動と家族支援の不足感

◆土日などの余暇活動やスポーツ活動をしたいと思っても、身近な地域にそのような場所や機会がなく移手段も少ない。また、家族のレスパイト支援も大切。

(主な意見)

- ・障害福祉サービス利用後の夕方以降、地域に居場所がない。
- ・土日などの余暇活動やスポーツ活動をしたいと思っても、家族が行動するしかない。本人のできることを増やし、可能性を広げられたらよい。
- ・身近に交流できる場所、公園、学校施設などの利便性なども改善して使いやすくなったらうれしい。
- ・家族共倒れにならないように、介護している家族のレスパイト支援も必要と思う。
- ・日常生活支援サービスの確保等・自分で伝えることが難しい人がある
- ・多種・多様なニーズが求められる

#### (6) 福祉人材の足りなさ

◆事業を充実させようとしても、人材不足で厳しい状況がある。若い世代に福祉の仕事の魅力等を伝えて、就労のきっかけづくりに取り組む必要がある。

(主な意見)

- ・人材不足により事業継続が難しい。
- ・若い人が福祉の職に就きたがらない。募集しても集まらない現状がみられる。
- ・中学校や高校等を通じて、福祉に就職してくれるきっかけづくりを進めていく。
- ・福祉体験、高校生向け講演や就労体験に協力してくれる事業者もいる。